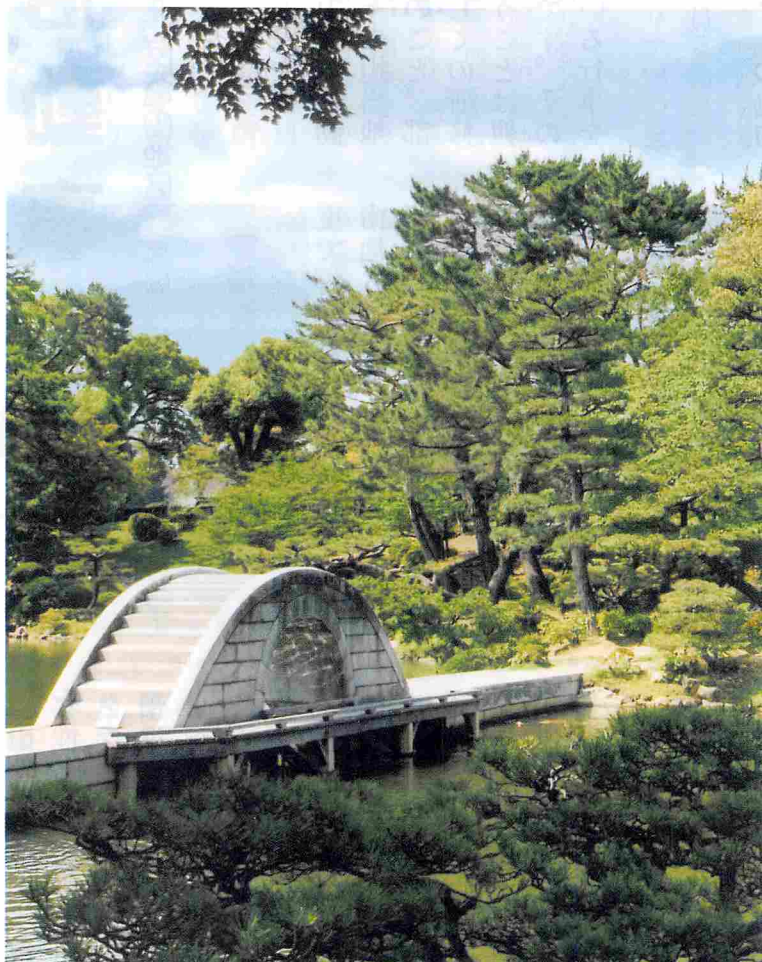




ひろしま 市民児協だより

広島市民生委員児童委員協議会
〒730-8586
広島市中区国泰寺町一丁目6-34
(広島市健康福祉局地域共生社会推進課内)
Tel 082-504-2137



名勝「縮景園」跨虹橋

(写真提供：中区袋町地区民児協 山崎 知子)



『日常が大切！ 災害時の支援活動』

安佐南区社会福祉協議会 事務局長 石田 浩巳

近年、毎年のように災害が発生しています。土砂崩れなどの被害が発生すると、ボランティア活動者が集まり、被災された方々が一日も早く日常生活を再開できるように、土砂撤去や家財道具の搬出、その他生活支援を行います。

社会福祉協議会（以下、「社協」と

いう）は、災害ボランティアセンターを立ち上げ、このようなボランティア活動者が効率的に活動できるように交通整理を行います。

広島市で発生した、平成26年や平成30年の豪雨災害の時には、全国からボランティア活動者が駆けつけ、各地域の災害ボランティアセンターを通して

復興支援を行いました。

令和3年8月11日の大雨で発生した西区と安佐南区の土砂災害においても、両区の社協が災害ボランティアセンターを設置しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的な移動制限もあつてボランティアの受け入れ制限や、暑さ対策をとりながら活動時の密回避に注意しなければならませんでした。

この時、安佐南区等ではインターネットを用いた事前登録制でボランティア活動者を募集して活動場所を割り振ることで、密回避を行いました。

特に伴学区では地元連合町内会や地区の民生委員・児童委員の皆さまの声かけやボランティア活動者の受け入れのための受付などに協力いただいたことで、円滑にボランティア活動を進めることができました。

大切なことは、普段からの町内会や自治会の行事等を通じて生まれる「お互い様」や「支え合い」が、災害時にも活かされるものと感じています。普段のつながりや関わりがないと、災害時には対応できないと思います。

民生委員・児童委員の皆さまと社協は車の両輪に例えられることがあります。引き続き、連携・協力しながら地域福祉を進めていければ幸いです。



日本舞踊と私

西区南観音地区民児協 荒谷 律子

私が日本舞踊を始めたのは、小学1年生の時でした。近所の小学1年生から6年生の、お姉さんたちと一緒に稽古をしました。中学生になってからは、皆それぞれの道に進まれて、私1人が先生のお宅に行つて3年習いました。それから私は私も学生生活のために、先生とお別れいたしました。

学生として何年かたつて、結婚、子育てと踊りも遠ざかっていましたが、ある日近所の友達から、県民謡を習わないかと誘われて、10名くらいの会に入会致しました。入会してもう50年になります。毎週1回、月に4・5日練習をしています。なかなか覚えも悪くなりましたが、皆が楽しく笑顔で練習に励んでいます。年2・3回の発表会の開催、フラワーフェスティバルにも広島グループ全体で毎年参加しています。新型コロナウイルス



の影響で、この2・3年は残念ですが参加できていませんが、楽しく練習は続けています。日々、民生委員活動やボランティア等々元気で頑張れるのも舞踊という身も心もリフレッシュできる趣味のお陰だと思っています。これからも日本舞踊との出会いに感謝し頑張つてまいります。



川柳

ひとり宅 家庭訪問「あんただれ」
訪問し ひとり暮らしの 笑顔見る
昔のこと 語るあなたは 得意顔

安芸区矢野南地区民児協 竹本利郎



編集後記

庭に咲く 1輪の花 思はれる

全学年2クラスであったが、多感な小学校4～6年の3年間、担任は、出征経験のある男性の教諭だった。このA教諭は、事あるごとに『親に感謝しなさい』また『買った物は、粗末にせず大切に、最後まで使いきれ』

そして趣味は、ひたすら花木類を愛する人でした。『長い風雨にたえてやっとこの花が咲くんや、人間も一緒やで』花を見るたび故人の言葉を思い出す。
(安芸区 二川)

活動事例



安佐北区亀山地区民児協 副会長 長山 文子

児童福祉部会

平成17年より開始。令和3年度で17回目となった亀山・亀山南地区「子育て支援連絡会」を紹介します。

亀山地区民児協は、亀山・亀山南小学校区の26名の民生委員と1名の民生委員協力員で活動を行っています。各々の担当地区での見守りは勿論のこと、部会毎に講師をお招きしての研修会や、施設訪問を行うことは他地区の皆様方と同様です。その中で、長年継続している行事を紹介いたします。

高齢者福祉部会

地域包括支援センターの協力を得て、平成22年より毎年地区内の各事業所所属のケアマネージャーの皆様と『ネットワーク会議』を行っています。

この会議は、高齢者の皆さんがいきいきと住み慣れた地域で安心して暮らし続けることが出来るように、ケアマネさんと私たち民生委員の両者が顔を合わせて意見を交換し、相互理解を深め、高齢者見守りネットワークの一環として始まったものです。



子育て支援連絡会風景

子育て支援関係者が一堂に会して、安心して子育て出来る環境づくりの為、地域の見守り・子育て支援活動を気軽に情報交換する場となっています。

出席団体は

女性会、母親クラブ、社会福祉協議会、子育てサークル、オープンスペース関係者、保育園、幼稚園、認定こども園、児童館、公民館、母子生活支援施設、子育て支援センター、そして私たち民生委員です。

まず、支援活動の取り組み方等、出席団体が順次発表し、今後に向けての課題や協力を求めたい内容を話し合います。この後3年度は8グループに分かれグループワークをしました。

① 活動を通じて感じるわが町の子育て世代・関係者の特徴
② ①の特徴をもとに今後チャレンジしたいこと、協力を求めたい団体や内容

と題して限られた時間の中で熱心に話し合いました。一例として、同居家族がいない、支援してくれる家族が遠方、引越して



てきた家族が町内会・自治会に加入しない等、また、気軽に相談し手伝ってもらえる場・話を共有できるオープンスペース等の情報が伝わっていない。

この様なことから孤立する例が少なくない等々、時間切れで具体的な意見を引き出すまでは難しかった様ですが、今後も引き続き開催していきたいと考えています。

子育て支援マップの表は、「こんにちは赤ちゃん」訪問時に今後の子育てに役立てていただけるよう情報提供し喜んでらっています。

佐東南地区民児協の活動



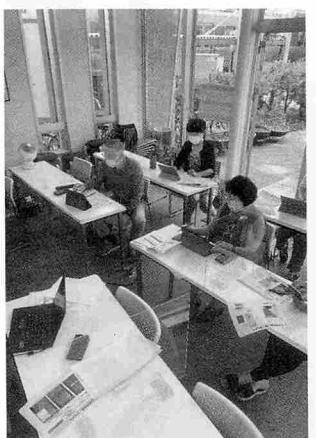
安佐南区佐東南地区民児協 主任児童委員 世羅 令子

コロナ禍の中、試行錯誤をしながら、いくつかの新規事業に取り組みました。

1つめは、当民児協独自の広報紙「きずな」を発行したことです。初号（保存版）は、民生委員・児童委員のPRと顔写真入りの委員名簿を掲載しました。さらに2号では、活動報告、協力員募集についても告知し、担当エリア内の全世帯への配布をしました。

2つめは、「認知症の方を上手に支えるコツ」という演題で講師を招き、公開講演会を開催しました。約50名の方の参加があり、「認知症のケアの本質は人間関係を整えること」というお話を聴くことができました。

3つめは、地域福祉と防災を考えるきっかけとして防災施設見学を実施しました。当地区は平成26年の広島土砂災害を経験しており砂防えんていの土砂撤去作業現場も視察することができました。



4つめは、現在進行中のICT研修会の実施です。コロナ禍の活動でスマホやメール、リモート会議ツールの利用は避けて通れない状況となり、各自のICTへのスキルアップの底上げを行うため実施しています。

「四苦八苦じゃ」とため息をつきながらもZOOMの画面にうつった自分の顔と参加者の顔を見ながら、和気あいあいと研修に励んでいます。

「人の為 福祉活動 我が為に」と川柳で詠んだ委員がいます。活動の中に学びや楽しみ、喜びがあることを皆さんに周知していきたいと思っています。

「地区民児協地域福祉事業助成」を活用して

ベストと幟旗を作製

中区十日市地区民児協 会長 松村 妙子



私たちの地区は広瀬小学校区と本川小学校区の2つの学区から成る広い地域です。古くからの住民もかなり多く、その方々の高齢化が進んでいます。又その反面、市中心部への利便性が良いことから、大規模マンションの建設も進んでおり若い世代の流入が多くみられます。子育て世代の親子の状況把握などの課題も抱えています。

す。基本カラーは淡いピンクですが、遠目にもはっきりとよく見えます。参加者たちからも「私たちスタッフからも「優しい印象を受ける」とか、「入口が分かり易くなった」とか評判も上々です。

更に嬉しいことに私たち委員同士の連帯感が向上し、意識の充実にもつながっていることです。コロナ禍で十分な活動が出来ない期間が多くありましたが、再スタートの積もりでこれからも、各事業に皆で協力し取り組んでゆきます。

そんな地域の住民たちへの相談相手となる様に、「子育てオープンスペースぽつぽ」と「認知症カフェ広瀬の杜」の2つを福祉事業として、従来より実施しています。民生委員の存在やこれらの事業の活動内容の周知を更に広げてゆきたいの思いから、ベストと幟旗を作製し活用を始めました。ベストは全員で着用し、幟旗はポツポとカフェに各5枚ずつ用意し、事業開催時に入口付近に掲げていま